

## 事例研究報告

特別支援学校小学部児童に対する  
平仮名单語をローマ字入力で  
タイピングができるようになるための指導

# 児童の実態

- 知的障がい， 自閉症
- 言葉でコミュニケーションができる
- 文字のスケジュールで行動することができる
- 清音の平仮名单語のローマ字入力ができる
- 間違えると気分が落ち込んでしまうことがある

## 保護者の願い

パソコンを使えるようになってほしい

## 教員の願い

- ・興味がある事柄や疑問に思うこと，もっと知りたい事等を自分で調べることができるようになってほしい。
- ・自分で調べることで興味の幅を広げてほしい

## 【指導目標】

ローマ字打ちで拗音を含む平仮名单語5つをタイピングすることができる。

10秒以上活動が滞っている場合は、

- ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする
- ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する
- ステップ③ ローマ字表を提示する

## 《記録方法》

「AI-PAC」システムを利用して記録

AI-PACとは、発達障害児に対するエビデンスに基づいた包括的早期療養プログラム

(特別非営利活動法人ADD Sと慶應義塾大学が共同開発)

- ・ 活動実施毎に、以下の実施結果をシステム上に記録
  - : 不可    P : 支援有りで可    + : 可
- ・ 指導している動画をシステム上に記録

## 指導の手続き

- ① 1分以内に1単語打ち，ゲーム感覚で取り組む
- ② 言語指示で1単語ずつ行う
- ③ できたらすぐに「正解」「できたね」と言語称賛する

**達成基準:** 5つの平仮名单語を正しく3回連続で  
タイピングできた場合

5つの平仮名单語は拗音を含む下記の単語にする  
「しょうゆ」「こんにやく」「きゅうり」  
「ひやくえん」「ちよきん」

※実物（意味）や音声とマッチングできている平仮名单語を使用。

# アセスメント

5つの平仮名单語をローマ字入力でタイピングする

日付	10月16日	10月19日	10月20日
正解数	0/5	0/5	1/5

- ・10月20日は「きゅうり」のみ入力することができた



## 児童の様子

- ・分からないと諦めて顔を伏せる
- ・自信がないため「難しすぎる」「これは無理」と消極的になる

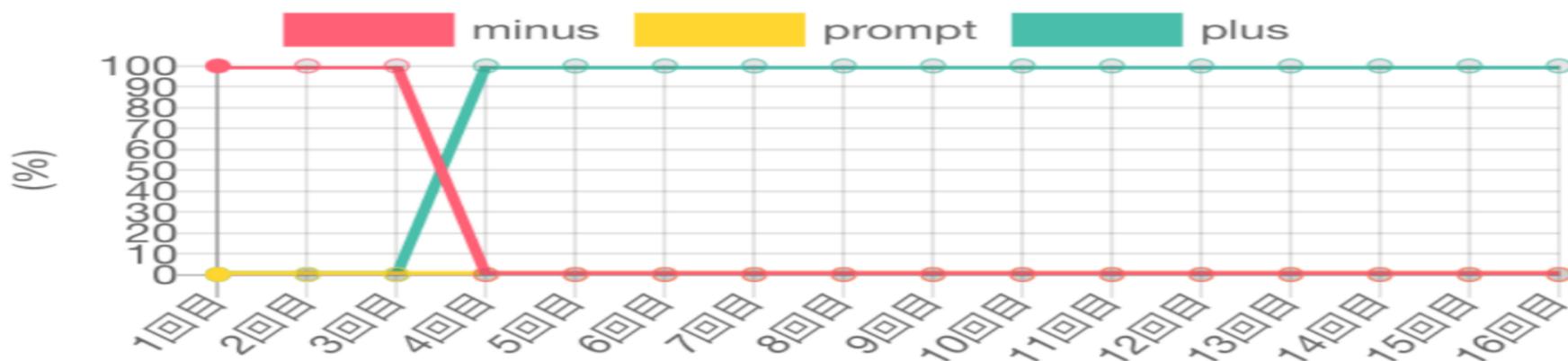
# 「しょうゆ」の指導結果

10秒以上活動が滞っている場合は、

ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする

ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する

ステップ③ ローマ字表を提示する



アセスメント 1～3回目

ステップ① 4～6回目

ステップ② 7～9回目

ステップ③ 10回目以降

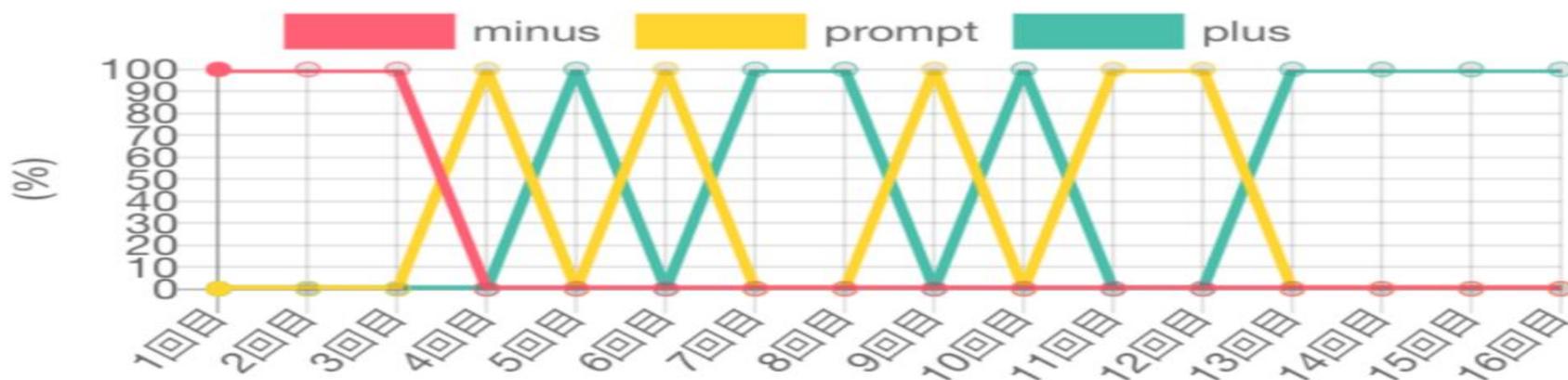
# 「こんにやく」の指導結果

10秒以上活動が滞っている場合は、

ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする

ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する

ステップ③ ローマ字表を提示する



アセスメント 1～3回目

ステップ① 4～6回目

ステップ② 7～9回目

ステップ③ 10回目以降

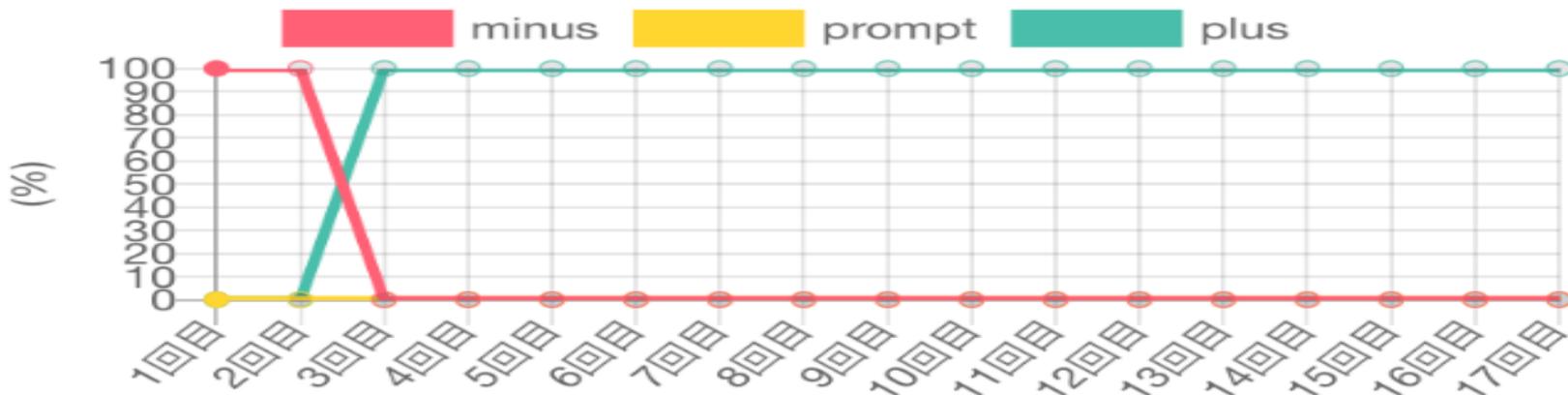
# 「きゅうり」の指導結果

10秒以上活動が滞っている場合は、

ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする

ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する

ステップ③ ローマ字表を提示する



アセスメント	1～3回目
ステップ①	4～6回目
ステップ②	7～9回目
ステップ③	10回目以降

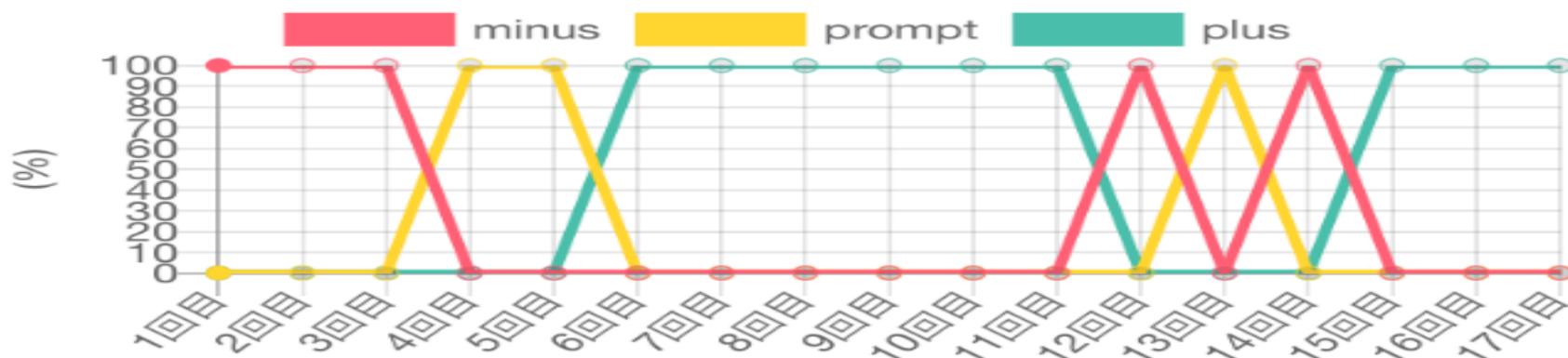
# 「ひゃくえん」の指導結果

10秒以上活動が滞っている場合は、

ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする

ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する

ステップ③ ローマ字表を提示する



アセスメント	1～3回目
ステップ①	4～6回目
ステップ②	7～9回目
ステップ③	10回目以降

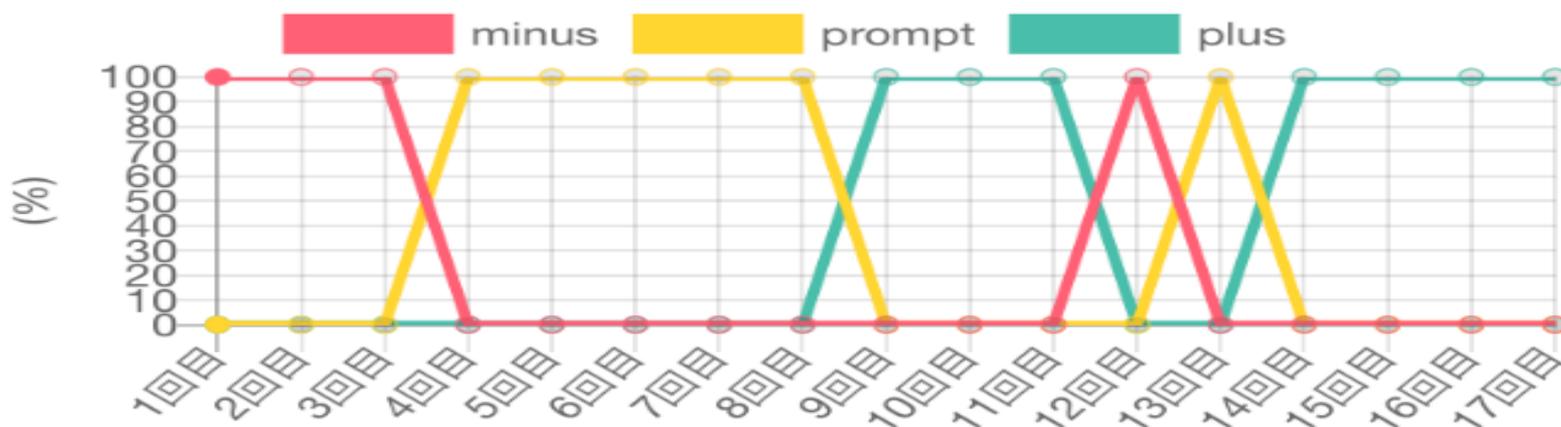
# 「ちょきん」の指導結果

10秒以上活動が滞っている場合は、

ステップ① ローマ字表を提示して、**文字を指差し**をする

ステップ② ローマ字表を提示して、**行を指差し**する

ステップ③ ローマ字表を提示する



アセスメント 1～3回目

ステップ① 4～6回目

ステップ② 7～9回目

ステップ③ 10回目以降

# アドバイザーからの助言



- 音声で単語を言うだけでなく、文字カードを提示して入力するようにする。
- 同じ拗音を含む違う単語で入力することができるか試行してみる。
- 単語ではなく、「しょ」「きゅ」だけでも入力できるか試行してみる。
- 記憶が接続するように、休み時間にiPadを使って調べたり、検索したりする時間を設ける。

# 指導の成果

- ・ 繰り返し学習することで、少しずつできるようになり、児童が「これはできる」「よっしゃ」と自信をもって取り組むことができるようになった。
- ・ 最初は、できないことで顔をふせたり、時間があっても諦めてしまったりすることがあった。しかし、スモールステップで指導することで、できることが少しずつ増え、難しいときでも最後まで思い出そうとしたり、笑顔で取り組んだり、意欲的に学習することが増えた。

# 成功のポイント

- ・ 視覚的にわかりやすくする。  
（ローマ字表の改善，平仮名单語カードの提示）
- ・ 記録をとることで，苦手な単語を知ることができた。
- ・ 繰り返し行うことで児童の「できた」が増えて，学習意欲アップにつながった。

